

の指頭をつけ（他の四指の指頭は前方をさしている）そのままくりと右手の掌を内側にする。子供がてれて恥かしがる時、よく頭を垂れてする手の表情。

はずれる (イ) 掌を上向け指頭を右にさした左手の人差指の第一節（上部より）の上に、掌を下向け指頭を前方にさした右手の人差指の第一節をあてがひ十形をつくる。これまでは「叶う」「適する」「あてはまる」の手まねになるが、そこで右手の人差指を左手人差指から、はずして下へ落す。(ロ) 卍または右手の人差指を上へはね上らせる。

旗 左手の指頭を上にした親指の上に、掌を内側にし五指の指頭を左にさした右手を手首のところにつけて、その手をそのまま前後にふる。左手は旗竿、右手は旗布、前後にふるは風にはためくこと。

畑 「田」と同じ要領で表わす。

働く 「仕事」と同じ手まね。

罰 天（人差指で上をさす）——叱られる（「叱る」の手まねを受身にする。即ちその親指を自分の頭に向ける）

罰金 自分—悪い—責任—金銭を出す。

はつきり 「明らか」と同じ手まね。両者は「明確」に分けること。

鳴 人差指を胸の上部につけてから、その指で前方弧を描いて降して行き、腹部につける。（鳩胸の輪郭を描く）——鳥。

花 合掌した両手をまるく、ふくらませて花のつぼみの形をつくり、手首をつけたまま、花が開くように両手の掌を左右に開く。片手掌を上に向け、五指の指頭を集め合わせ（つぼみ）てからぱっと五指を開く。

話 「手まね」と同じ。嚙啞者の場合、話は手まねであるから、話即ち手まねである。省く「除く」と同じ手まね。

浜辺 「海岸」と同じ手まね。

晴れ 「晴天」と同じ手まね。

林 「木」の手まねをして、五指の指頭を上にし、掌を内側にした両手を前後に重ねて、左右に離して行く。木のたくさん並らんでいる様。

春（暖い） 掌を内側にして五指を稍々ゆるやかに屈めた両手を胸の前で、空気を掻き寄せるようにする。ほこほこと暖気が身に感ずる表現。

針 人差指の指頭で頬を突く。

叛逆 主 政府 V 反抗—戦う。

反抗 肘を曲げて右腕を右へ突っ張る。

番号 「数」を表わした右手を左肩につける。

判事 裁判—人（少し高い目にさし上げる）。

半身不随 五指の指頭を上にし、掌を左に

向けた右手を鼻梁の上にびったりとつけ、そのまままっすぐに胸に降して、片方の手を不自由そうにぶらぶらさせる。

反省 「思い忍ぶ」の手まねの運動の手の途中から下へ腹部に向って弧を描いて降して行く。わが心に「思い」を致すこと。

犯人 具体的に表現をする。即ち、盗んだ—人。殺した—人。となる。

半分 掌を上に向け指頭を右にさした左手の人差指の上、ちようど中頃に、右手人掌指を十字に組み、左手人差指を半分に切るように手前の方へ引く。

煩悶 「悩む」と同じ。

判明 はっきり—解かる。

叛乱 叛逆—戦争—乱れる。